

鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン（第4次計画）案の概要

1 鳥取県子どもの読書活動推進ビジョンとは

「子どもの読書活動の推進に関する法律」（H13）に基づき、今後、おおむね5年（H31～）にわたる施策の基本的方針と具体的な方策を示すもの／第3次計画（H26～30）

2 第3次計画期間内の成果と課題

<成果>

- 家庭における読み聞かせが増加 [H24:89.6%→H29:94.2%]、幼児期における公立図書館の利用が増加 [H24:46.3%→H29:51.3%]
- 本県の子どもは引き続き読書好きの傾向 [小6:75.7% (全国74.3%)、中3:74.9% (全国69.9%)]
- 学校図書館体制の充実と利用の増加
 - ・全公立小中学校・県立高等学校・特別支援学校に司書教諭を配置 (全国1位)。学校司書の配置率も全国平均より高い。
 - ・学校図書館支援センターを設置 (H27:都道府県立図書館で初)
 - ・学校図書館を利用する児童生徒の割合が増加 [小:95%以上、中:約70%、高:約65%が学校図書館を利用]

<課題>

- 学年が上がるにつれて読書をしない傾向（特に高校生）。読書の二極化傾向も
 - ・一ヶ月に一冊も本を読まない「不読率」 [小3:4.5%→小6:7.2%、→中3:14.5%→高2:29.3% (H24:21.3%) (全国高校生平均:50.4%)]
 - ・読書「好き」が増加 [小3:+4.2%、中3:+1.3%] するも、「嫌い」も増加 [小3:+1.3%、中3:+0.7%]。一方で1ヶ月に読む本が6冊以上の児童生徒も増加。
- 児童生徒による公立図書館の利用は減少 [小3:△5.2ポイント、高2:△16.9ポイント]

3 基本理念・ビジョンの柱・取組

基本理念「未来を担う子どもの心豊かな成長を促す読書活動の推進」

- (1)子どもが読書に親しむための機会・環境の提供と充実
 - ・家庭における子どもの読書活動の推進
 - ・地域における子どもの読書活動の推進
 - ・学校等における子どもの読書活動の推進
- (2)子どもの読書活動を支える人の育成等
 - ・図書館職員、司書教諭、学校司書等の育成
 - ・読書ボランティアへの支援
- (3)子どもの読書活動推進のための啓発・広報

4 改定のポイント

- (1)成果と課題を踏まえ、「中学生以上が多忙な中でも本を手にするきっかけにつながる取組」、「家庭環境にかかわらず乳幼児期からの読書習慣形成を支援する取組」、「公立図書館の利用促進」を重点としながら、家庭・地域・学校等における取組、これを支える人材育成及び啓発・広報について記載。
- (2)人生100年時代の生涯学習の礎として読書活動を位置づけるとともに、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、学校図書館の活用による自主的・自発的な学習・読書活動の充実について記載。
- (3)数値目標については、不読率の減少等の従来の目標項目に加え「家庭での読み聞かせの実施率」の新規設定 [H29:94.2%→5年後目標:95%] 等を行う。

5 子どもの読書活動推進のための方策

家庭

○家庭における読書活動の推進

- ・ブックスタート事業等の継続実施
- ・子ども読書アドバイザーの派遣による支援
- ・妊娠期も含めた保護者への啓発
- ・大型集客施設における啓発・出前図書館の実施等

【新】家庭での読み聞かせを1週間に一日以上行う割合】

H30:94.2%→5年後目標:95.0%

【家や図書館で10分以上読書する割合】
5年後目標 小3:80% 小6:70%

人の育成

- 図書館職員、司書教諭、学校司書等への研修の充実（←学校図書館支援センターによる研修・講師派遣等）
- 読書ボランティア等に対する研修

【県立図書館主催の専門研修会総参加者数】

H29:751名→5年後目標:900名以上

【市町村図書館における研修会の開催】

H29:14市町村→5年後目標:19市町村

【「読書が好き」な子どもの割合】5年後目標:向上

地域

○公立図書館の役割・取組

- ・幅広い分野の本と出会う機会の提供（おはなし会、ブックリストによる情報提供等）
- ・図書館を知り関心を高める取組（「鳥取県ジュニア司書養成講座」等）
- ・「第3の居場所」としての発信
- ・子ども食堂等への団体貸出の促進
- ・公立図書館への点字図書、録音図書等の整備等

○民間団体の役割・取組

- ・読書ボランティア等との連携強化・情報提供の充実
- ・書店等との連携・協力

【公立図書館の県民一人あたり貸出冊数】

H29:5.8冊/年→5年後目標:6.2冊/年

【市町村図書館と読書ボランティアの連携による取組数】

H29:28/30館→5年後目標:30/30館

- 子ども読書の日等における啓発の実施
- 乳幼児保護者を対象とした啓発、大型集客施設等における啓発
- 児童生徒が本を手取るきっかけづくりとなる優れた取組の情報提供

【不読率】5年後目標 小3:3%以下、小6:6%以下、中3:12%以下、高2:16%以下

学校

○幼稚園・認定こども園・保育所

- ・絵本に親しむ環境づくり（読書スペースの確保・図書の充実等）
- ・発達段階に応じた選書等に関する保育士・教諭等の研修の実施

○小・中・高等学校

- ・読書習慣の形成・確立（一斉読書のほか、学校独自の取組）
- ・読書への動機づけにつながる取組（ビブリオバトル、ブックトーク、ポップ作成等）
- ・新学習指導要領を踏まえた学校図書館の機能強化（←学校図書館支援センターによる研修・相談等の支援）

○特別支援学校

- ・障がいの種類・程度や発達段階に応じた多様な読書活動を推進（点字図書・録音図書等の充実、触覚・温感を伴う読み聞かせ等の工夫等）

【一斉読書実施率】

5年後目標:100%

啓発・広報